



バリアフリーの取り組み

車両のバリアフリー

平成4年度より「車いすスペース」を順次設置しており、平成19年3月31日現在210両となっています。また、車両の出入口上部に「車内案内表示器」を設置し、列車種別、行先、停車駅、次駅で開くドアの案内などをLED等で表示。現在800、5000、7000(一部)、7200、9000、10000系各車両に設置しています。



車いすスペース



車内案内表示器

優先座席

お年寄りや体の不自由な方、妊娠されている方などのための優先座席ゾーンの明確化を図っています。従来から窓ガラスに貼り付けていたステッカーに加え、座席の背もたれはオレンジをベースにピクトグラムを印刷したものとし、カーテンは「優先座席」マークとピクトグラムを印刷したものに、また8000系特急車両では座席の上部カバーはオレンジ色をベースにピクトグラムを配したものにしています。また優先座席ゾーンでは、携帯電話の使用禁止について「電源OFF」シールを貼り付け、注意喚起しています。いずれも平成19年7月までに京阪線全車に取付完了予定です。

情報や注意を示すための絵文字



優先座席



優先座席(8000系)

列車接近表示盤

耳の不自由なお客さまに列車の接近・通過をお知らせする装置で、京阪線30駅に設置しています。文字による表示だけでなく、表示盤側面にフラッシュライトを設け、光による警告も行っています。



列車接近表示盤

エレベーター・スロープの設置

当社は、地方自治体などと協力し「交通バリアフリー法」の対象となる5千人以上のお客さまが乗り降りされる駅にエレベーターやスロープなどを順次設置しています。平成18年度は、新たにエレベーターを萱島駅に設置し、伏見稻荷駅ではスロープを改良し、多目的トイレを設置しました。平成19年3月末現在、対象駅57駅の内30駅がバリアフリー化しています。



萱島駅エレベーター

トイレの環境改善

当社線のトイレについては、体の不自由な方にもご利用いただけるようにバリアフリー対応の改造工事を順次行っています。[車いす対応WC(約50駅)、手すり付きWC(約70駅)、オストメイト対応WC(約20駅)]。このほか、お子さま連れのお客さまにも安心して利用していただけるよう、ベビーシートやベビーキープの設置も進めています。また、京阪線全駅と改札内にトイレがある大津線の7駅のトイレに、きっぷをリサイクルしたトイレトーパーを設置しています。さらに、お客さまに快適にトイレをご利用いただくため、清掃の強化と消臭対策を実施しています。



オストメイト対応トイレ

サインのユニバーサルデザイン

「ユニバーサルデザイン」の観点から、お客さまが円滑に駅をご利用いただけるよう「わかりやすい案内サイン」の設置を進めています。新しい案内サインはピクトグラムや英文字を併記するなど、平成14年発行の「公共交通機関旅客施設のサインシステムガイドブック(国土交通省監修)」や平成15年改正の通称「外客誘致法」に準拠しています。



新デザインの駅案内サイン